2020年6月作成

ＮＰＯ法人市民後見ひょうごの中期計画
2020-2024

市民後見ひょうごの成年後見人としての基本活動理念
（社会貢献ボランティアとしての法人後見の実践）

1　ノーマライゼーション
　本人にふさわしい住み慣れた地域又は望ましい施設等での生活を支援する。
2　自己決定の尊重
　本人の意思決定の能力に応じて具体的な選択肢を提示して決定を支援する。
3　身上の保護
　本人の生活の質を重視して心のケア及び心身の健康の保持を支援する。
4　本人中心主義
　本人の存在・生活・立ち位置から課題や問題を考えて支援する。

市民後見ひょうごの法人後見基本活動モデル
（要支援者及び被支援者への支援モデル）

○ 見守りモデル（見守り契約による支援モデル）
○ 成年後見モデル（法定後見による支援モデル）
○ 任意後見モデル（任意契約・任意後見契約による支援モデル）
○ 死後事務モデル（葬儀・お墓・供養等の支援モデル）

市民後見ひょうごに集う者が共有すべき課題

1 地域社会と当会との関係と地域社会から見た当会の存在価値
2 当会に集う人達が活動に際して優先すべき価値と当会が活動に期待するもの
3 当会が運営において整備しておくべき重点項目
「組織運営の基本はガバナンス、ヒト、情報発信、カネ、連携、ノウハウ」
(1) 組織運営能力の向上とガバナンスの強化
(2) 参加者の掘り起こし
(3) 活動情報の発信力の向上
(4) 財務基盤の安定化
(5) 外部協働者（専門職、専門組織）とのネットワークづくり
(6) 行政、他のＮＰＯとの連携と運営ノウハウの掘り下げ

市民後見ひょうごに集う者が共有すべき課題　**（太字は重点項目）**

課題１　：当会と地域社会との関係と地域社会から見た当会の存在価値

「中長期的に安定した福祉サービスが行える組織であること」

(1) 社会的弱者の受容と、共歩、共生が出来ること

(2) 地域における支え合いの基盤を提供すること

① 社会貢献を行う場

② 支え合い（愛）の場

③ 支える技術、手段を提供する場

(3) 志ある人への自己実現の機会と場所の提供を行うこと

課題Ⅱ　：当会に集う人達が活動に際して優先すべき価値と当会が活動に期待するもの

「社会貢献とは時間と体力と経済力の余力を使って自発的に参加するものであり、社会貢献活動は参加することに負担を感じながら行うものではない」

(1) 当会に集う人達が社会貢献活動を行うに際して優先すべき価値

① 自分の人生

② 家族との絆

③ 仕事の充実（生活の基盤）

④ 余力による市民の感性を有する社会貢献ボランティアとしての活動

(2) 当会が活動の参加者に期待するもの

① 余力による参加

② 過去の経験から得た能力、知見、技能等の提供と、共有する姿勢

③ 適材適所による役割の分担と、応分の責任感

課題Ⅲ　：当会が運営において整備しておくべき重点項目

「組織運営の基本は*ガバナンス、ヒト、情報発信、カネ、連携、ノウハウ*」

上記を重点項目として、運営ルールの策定と実現のための行動指針

(1) 組織運営能力の向上と*ガバナンス*の強化

：倫理、法務、会計　情報管理　情報取得ルールの策定

：個人情報の保護

：**重要項目に関して内部チェックシステム（相互チェック）の導入**

：**組織の体制　（組織の担当を固定化せず数年毎に移動し、スキルが個人に偏在しないようにローテーション）**

・事務局（既存）：法人運営、被支援者の財産管理を担う

・支援部（既存）：マネージメント会議：被支援者の身上監護を担う
被支援者対応の支援計画担当、正・副支援員による、複数支援体制
複数の被支援担当、被支援担当の無理の無いローテーション

・理事会（既存）：**月毎を目標**に定期的に開き当会課題の整理、方策の決定、実施状況の確認を行う。

・監事会（既存）：**月毎を目標**に定期的に開き組織運営上の課題をあぶり出して理事会に繋げる。
・倫理委員会（**新設仮称**）（監事＋事務局長＋理事長＋一般会員３名）年数回程度を開催
・受任決定審査会（**新設仮称**）（事務局＋支援部）受任事に開催

⑵ 参加者の掘り起こし

：**様々な社会経験を持つ人材の確保　支援員、スタッフ**
：地域内眠れる人材への情報発信
：元気シニア層の「ちょい参加」の仕組みづくり

⑶ 活動情報の発信力の向上、

：契約者開拓のパイプづくり　（施設、医療機関、支援センター）
：発信内容、発信ツールの検討
：行政主催セミナーの活用

⑷ 財務基盤の安定化

：**専門士業会員からの業務委託ルールの明文化**
：賛助会員の拡大化（負担感の少ない目標設定）
：補助金、優遇制度の研究と利用
：予算目標（収益目標）の導入

⑸ 外部協働者（専門職、専門組織）とのネットワークづくり

：前提は当会が重点的に取り組むサービスの絞り込み
：**取り組むサービスに応じた外部協働者の選択**
：外部協働者が有するノウハウの共有

⑹ 行政、他のＮＰＯとの連携と運営ノウハウの掘り下げ

：行政主導による各ＮＰＯのネットワークづくり参加
：**行政主導によるＮＰＯ運営ノウハウの研修、人材の育成研修参加**

中期（向後５年）の活動方針

当会の人材、知見、技能等を考慮して、

① 現状サービスの質量の向上を図り、

② 地域との連携や専門職、行政機関との連携を模索・強化しつつ、

③ 高齢者･障害者等の総合サービス支援の相談窓口として地域住民に知名度の浸透を図り、

④ 併せてノウハウの習得と顧客基盤の開拓を狙う。